

3日目(19日<土>) 第69次秋季教育研究山梨県集会へ参加
山梨県内見学
山梨から東京へ移動
東京見学
(東京都泊)

4日目(20日<日>) 帰国

6 第4回日中音楽教育交流会

会場 笛吹市立春日居小学校
参加者 代表団 8名(代表団名簿参照)
春日居小学校関係職員(志村学校長・霜村学年主任他)
協会役員 3名(黒田代表理事・赤岡業務執行理事・小串評議員)
笛吹市教育委員会 1名(岩間指導主事)
教育協議会関係者 1名(黒沢事務局次長)
通訳 2名(朱天嬌・朱嘉文) 計20名
内容 ・音楽授業の参観後、授業についての感想を中心にしながら、日中の音楽教育について実践的な話し合いを持ち交流を深める。
次第 進行 小串評議員
①黒田代表理事挨拶
②湯代表団団長挨拶
③志村学校長挨拶
④参加者の紹介
⑤授業者からの説明
⑥質疑・応答—交流
⑦まとめ

7 笛吹市長・教育長表敬訪問

参加者 代表団 8名(名簿参照)
協会役員 3名(黒田代表理事・赤岡業務執行理事・小串評議員)
教育協議会関係者 1名(黒沢事務局次長)
通訳 2名(朱天嬌・朱嘉文) 計14名
内容 ・今教育交流代表団の訪問に対し、市内小学校の公開等についてご理解とご協力をいただいた、笛吹市長様・教育長様に対し敬意を表する。
次第 進行 赤岡業務執行理事
①訪日団・協会役員及び関係者の紹介(赤岡理事)
②黒田代表理事挨拶
③湯代表団団長挨拶
④笛吹市関係者の紹介
⑤山下笛吹市長挨拶
⑥懇談
⑦記念撮影

8 山梨県知事表敬訪問

参加者 代表団 8名(名簿参照)
協会役員 3名(黒田代表理事・赤岡業務執行理事・小串評議員)
受入団体担当者 1名(林書記長)
通訳 2名(朱天嬌・朱嘉文) 計14名
内容 ・今教育交流代表団の主たる訪問地である山梨県の知事様・教育長様及び教育委員会関係者の皆様に、今訪問の目的や意味・教育交流の実施状況等について説明し、ご理解を得るとともに、代表団へのご協力に対して敬意を表する。

次第 進行 赤岡業務執行理事
①訪日団・協会役員及び関係者の紹介(赤岡理事)
②黒田代表理事挨拶
③湯代表団団長挨拶
④山梨県関係者の紹介
⑤長崎山梨県知事挨拶
⑥懇談
⑦記念撮影

9 歓迎レセプション

会場 ホテル八田
参加者 来賓 2名 山下笛吹市長・小澤笛吹市教育長
訪日団 8名(名簿参照)
協会役員 5名(黒田代表理事・赤岡業務執行理事・小串評議員・大川評議員)
笛吹市教委 2名(長野課長・岩間指導主事)
笛吹教協役員 2名(武川副会長・黒沢事務局次長)
春日居小学校 6名(志村学校長・風間教頭・田草川教務主任・霜村学年主任・渡辺教諭・松土教諭)
通訳 3名(朱天嬌・朱嘉文・趙越男) 計28名

次第 進行 小串評議員
①開会の言葉(中村理事)
②黒田代表理事挨拶
③湯代表団団長挨拶
④来賓祝辞 山下笛吹市長
⑤乾杯 小澤笛吹市教育長
⑥歓談(テーブルスピーチ)
⑦閉会の言葉(赤岡業務執行理事)

10 第69次秋季教育研究山梨県集会

会場 富士川町立増穂中学校
参加者 代表団 8名(名簿参照)
協会役員 1名(赤岡業務執行理事)
通訳 2名(朱天嬌・朱嘉文) 計11名
内容 教育交流代表団に教育研究集会を参観してもらう中で、山梨県の小中学校における教育実践研究のあり方等について理解を深めてもらう。
流れ 全体会。分科会への参加

(2) 「第5次宋慶齡基金会訪日代表団」名簿

	氏名	仕事先	職務	対外身分
1	湯 建軍	中国宋慶齡基金会	基金部副巡視員	団長
2	袁 振雅	中国宋慶齡基金会	基金部項目主管	秘書長
3	董 在龍	東平県仏山中学校	党支部書記	団員
4	史 桂玲	東平県教育・体育局	学生資助中心主任	団員
5	張 德峰	東平県第三実験小学校	校長	団員
6	辛 誠	東平県第三実験小学校	校長	団員
7	宋 贊	東平県青峰山実験小学校	音楽教師	団員
8	翟 明菲	東平県仏山小学校	音楽教師	団員

(3) 第4回日中音楽教育交流会

- 主催団体 (公財)日本中国国際教育交流協会 中国宋慶齡基金会 山東省泰安市東平県教育局
 ○目的 日本、中国双方の音楽教育の実践について交流し、互いの音楽教育の質の向上を図る。

【日程】

- 9:00~9:15 挨拶 (校長室)
- 9:15~9:40 学校概要説明(校長:志村 伸) (会議室)
- 9:45~10:15 授業参観

巡視順	学年・組	担任・授業者氏名	教科・領域	場 所
1	2学年1・2組	平井 晴江・細田 早紀	体育	体育館
2	6学年2組	雨宮 瞳	音楽	音楽室
3	6学年1組	小野 郁弥	理科	理科室
4	1学年1組	標 哲也	算数	1-1教室
5	1学年2組	高野美代子・村松 里紗	算数	1-2教室
6	1学年3組	中島あゆみ・佐野 英美	国語	1-3教室
7	4学年3組	古屋 隆夫	国語	4-3教室
8	4学年2組	松土 早紀	算数	4-2教室
9	4学年1組	岩間みちえ	国語	4-1教室
10	5学年2組	市河 真木	道徳	5-2教室
11	5学年1組	辻屋 雅明	書写	5-1教室
12	3学年2組	渡邊 淳	算数	3-2教室

- 10:20~10:35 全校集会参観 第4学年合唱披露(体育館)
- 10:50~11:35 音楽教育交流会研究授業 第3学年1組 霜村 恵美(3-1教室)
- 11:40~12:25 音楽教育交流会(意見交換会)(会議室)
 内容 ・音楽授業の参観後、授業についての感想を中心にしながら、日中の音楽教育について実践的な話し合いを持ち交流を深める。

次第 進行 小串評議員

- 黒田代表理事挨拶
- 湯代表団团长挨拶
- 志村学校長挨拶
- 参加者の紹介
- 授業者からの説明
- 質疑・応答—交流
- まとめ

- 12:30~13:10 昼食(学校給食試食会)・休憩
- 13:10~13:45 昼休み・清掃活動及び校舎周りの見学
- 14:00 記念写真・挨拶

第3学年 音楽科学習指導案

指導者 霜村 恵美

- 題材名 曲の山を感じ取って歌おう
 教材名「ふじ山」(文科省唱歌 巖谷小波 作詞)

2 題材の目標

- 日本一高く美しい山を表した歌詞の内容となめらかで力強さがある旋律の特徴が生み出す曲想から思いや意図をもち、進んで学習に取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
- 旋律の流れや歌詞から曲の山を感じ取り、旋律にそった強弱や曲想にふさわしい声の出し方から表現の仕方を工夫しようとしている。(音楽表現の創意工夫)
- 曲の山を生かし、日本一高く美しい山を表す曲想にふさわしい声の出し方や強弱でのびやかに歌っている。(音楽表現の技能)

3 指導と評価の計画(2時間)

時	○学習内容・主な学習活動	◆評価規準
第一時	◎ふじ山の様子を思い浮かべながら、曲想をつかんで歌うことができる。	◆日本一高く美しい山を伝える歌詞の内容と、なめらかで力強さがある旋律の特徴が生み出す曲想から思いや意図をもち、進んで学習に取り組もうとしている。 【関心】観察、プリント ◆旋律の流れや歌詞から曲想にふさわしい声の出し方や表現の仕方を工夫しようとしている。 【創工】観察、プリント
	○範唱を聴き、曲想を感じ取る。 ・なめらかで力強い感じ ○正しく歌う。 ・歌詞から情景を想像すること ・プレス記号に気を付けること ・音程を正しく ・J. ♪のリズムを正確に ○表現の工夫への思いをもつ。 ・日本一の高さを表現するために、強弱を工夫すること ・美しい稜線を表現するために、なめらかに歌うこと	
第二時(本時)	◎曲の山を感じて、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができる。	◆曲の山を生かし、美しく力強い山を表す曲想にふさわしい声の出し方や強弱を工夫してのびやかに歌っている。 【技能】演奏聴取
	○富士山の美しい稜線の様子が伝わるように工夫する。 ・フレーズを生かして、旋律をなめらかに歌うこと ・躍動感のある付点のリズムを大切に歌うこと ○富士山の力強い様子が伝わるように工夫する。 ・曲の山を生かした強弱を工夫すること	

4 本時の学習

- (1) 日時・場所 令和元年10月18日(金)第3校時 3-1教室
- (2) 本時の目標 曲の山を生かし、日本一高く美しい山を表す曲想にふさわしい声の出し方や強弱で、のびやかに歌う。【技能】
- (3) 展開(2/2)

段落	学習活動と内容(◎は子どもに学ばせる活動や内容)	教師の支援・手だて(※は評価規準)
1	音遊びをしたり既習曲を歌ったりする。	○富士山の情景を想像させるために、情景画を用意する。 ○本時のめあてをつかませるために、既習の内容を思い出させる。 【共通事項】：旋律・リズム・フレーズ・強弱
2	前時学習を想起し、「ふじ山」を歌い、本時のめあてをつかむ。 めあて 日本一高く美しいふじ山の様子が伝わるように歌い方をくふうしよう。	
3	日本一高く美しいふじ山の様子が伝わるように歌い方を工夫する。	

- (1) 富士山の美しい稜線の様子が伝わるように工夫して歌う。
- ◎旋律の動きやフレーズを感じ取りながら歌う。
 - ・フレーズを生かして、なめらかに歌うこと
- (2) 富士山が日本一高い様子が伝わるように工夫して歌う。
- ◎曲の山を感じ取り、強弱を工夫して歌う。
 - ・一番伝えたいところ(曲の山)はどこかを考える。
 - ・曲の山にむかって、だんだん強くして歌うこと
 - ・曲の山のあとは、だんだん弱くして歌うこと

- なめらかに歌うことを意識できるように、運動会の歌のようにすべて強く歌わせる。
- 強弱の工夫に着目できるように、「ふじ山」を全部弱く歌ったり、全部強く歌ったりする。
- 視覚的に捉えやすいように、拡大楽譜の上に旋律の動きを表す線を入れる。
- 曲の山を生かした表現の工夫をさせるために、手の動きで強弱を感じ取らせながら歌声を工夫させる。
- ※曲の山を生かし、力強く美しい山を表す曲想にふさわしい声の出し方や強弱を工夫して歌っている。 【技能】

4 本時学習をまとめ、ふり返りを行う。

- (1) 本時の学習のキーワードとなる言葉を使って、ふり返りをする。

まとめ

曲の山を生かして強弱を工夫し、なめらかにのびやかに歌う。

- (2) 本時学習のまとめとして歌い、ふり返りを記入する。

- 本時の学習のキーワード「曲の山、強弱、なめらかに歌う」を使ってまとめる。

曲の山を感じとって歌おう ①

3年 組 名前

めあて

♪「ふじ山」はどんな感じの曲ですか。

♪どんなところからそう感じましたか。

♪ふじ山の様子を表すためにどんな工夫をしたいと思いますか。

ふじ山

♪=92~100

1 あたまをくもーの うえにだーし しほーの やーまを みおろーして
2 おぞら たかーく そびえ たーち からだに ゆーきの きもーのきーて

か み な り さーまーを し た に き く } ふ じ は に っ ぽ ん い ち の や ま
か す み の すーそーを と お く ひ く }

ふじ山
一、頭を雲の上に出し
四方の山を見下ろして
かみなりさまを 下に聞く

ふじ山
二、背が高く そびえ立ち
体にも雪のきもをきて
かすみのすそを 遠くひく

ふり返り

◎「ふじ山」の 曲の感じをつかむことができましたか。	😊	😐	😞
◎「ふじ山」の 曲の感じを表すために工夫することを考えることができましたか。	😊	😐	😞

曲の山を感じとって歌おう ②

めあて

まとめ

♪=92~100

文部省唱歌/藤谷小波 作詞

1 あたまをくもーの うえにだーし しほーの やーまを みおろーして
2 おぞら たかーく そびえ たーち からだに ゆーきの きもーのきーて

か み な り さーまーを し た に き く } ふ じ は に っ ぽ ん い ち の や ま
か す み の すーそーを と お く ひ く }

◎「ふじ山」の 歌い方を進んで考えて歌うことができましたか。	😊	😐	😞
◎日本一高く美しいふじ山の様子が伝わるように工夫することができましたか。	😊	😐	😞

(4) 挨拶(代表理事・代表団団長)

第5次宋慶齡基金会教育交流代表団歓迎レセプション挨拶

公益財団法人日本中国国際教育交流協会
代表理事 黒田 文男

第5次宋慶齡基金会教育交流代表団歓迎レセプションの開催にあたりまして、主催者を代表して、歓迎の挨拶をさせていただきます。

宋慶齡基金会基金部副巡視員の湯(TANG) 団長様、山東省泰安市東平県仏山中学校党支部書記の董(DONG) 様をはじめとする、団員の皆様を、大歓迎いたします。また、本日の歓迎レセプションに、大変お忙しい中を来賓としてご臨席賜りました、山下笛吹市長様、小澤教育長様、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。



さらには、今回の山梨県笛吹市における、第5次宋慶齡基金会教育交流代表団受入に際しまして、ご理解とご協力をいただきました、笛吹市立春日居小学校の志村校長先生をはじめとするご参会の関係者の皆様に、心から御礼申し上げます。

中国宋慶齡基金会と私共公益財団法人日本中国国際教育交流協会が、日中両国の教育交流を柱とする共同プロジェクトの取り組みを始めてから、すでに10年以上が経過しました。

最初の5カ年計画の共同プロジェクトは、河北省保定市易県における教育交流でした。そして、次の5カ年計画として山東省泰安市東平県での取り組みを進めてきました。今年度は、その最終年度となります。音楽教育を中心としての教育交流の中で、音楽教育の資質の向上を目指すとともに、教育に対する考え方や指導方法についても学び合ってきました。さらには、日中の学校教育の交流としても、意味のある取り組みを進めてきたと考えています。今回、笛吹市立春日居小学校を会場として、その実践にしっかりと学ばせていただきました。第4回日中音楽教育交流会の場でも、代表団の先生方から多くの具体的な質問や感想が出され、確かな成果があったも

のと感じております。笛吹市の山下市長様・小澤教育長様をはじめ、春日居小学校の先生方、関係者の皆様に重ねてお礼申し上げます。

代表団の皆様には、本日の学校視察・授業参観・第4回日中音楽教育交流会での成果を、ぜひ今後に生かしていただけたらと考えています。明日も、教育研究集会への参加、県立美術館での研修、富士山・河口湖等の見学と計画されています。今夜、このレセプションでも大いに英気を養って、四日間の日本における教育交流の成果を、確かなものにしていただきたいと思います。

今回の訪日団に際し、宋慶齡基金会の皆様には大変なご尽力をいただきました。また、山東省泰安市東平県教育局の皆様のご協力にも感謝しています。そして、当協会の事業に対し、ご理解とご協力をいただきました笛吹市の教育関係者すべての方々に、お礼を申し上げます。

音楽教育の交流を契機に、両国の教育が益々発展するとともに、両国の友好が「人と人の交流」を持ってより緊密になりますことを心より願い、歓迎のご挨拶とします。

歓迎レセプションでの挨拶

中国宋慶齡基金会基金部副巡視員 湯建軍

尊敬する黒田文男 様：

尊敬するご来賓の皆様：

こんばんは！

収穫が飽き満ちるこの秋に、日中国際教育交流協会のお招きをいただき、中国宋慶齡基金会および東平県音楽教師からなる友好交流団の一行8人が、日本に訪れてきました。まず、私は宋慶齡基金会および代表団の全員を代表いたしまして、今回のイベントの開催に協力・支援いただいた日中国際教育交流協会に心より感謝を申し上げます！中日両国の民間音楽教育における架け橋を構築していただき、どうもありがとうございます！



中国宋慶齡基金会は中華人民共和国国家名誉主席である宋慶齡氏を記念するために1982年に成立されたものです。1915年に孫文氏と宋慶齡氏は日本で結婚し、彼らは日本の友人との真摯な友情が長年続けられました。それは中日両国の人民友好交流を象徴するいい話として伝えられています。我が基金会は設立された以来、日本の民間にある諸友好団体と緊密に協力と交流活動を展開し、共に中日両国民の相互理解、文化間のコミュニケーションの促進に力を入れました。

2006年に我が基金会は日中国際教育交流協会と協定を結んで以来、双方は持続的な交流活動を行ってきました。貴会は河北省・易県と山東省・東平県のいくつかの中小学校の田舎音楽教師を対象に研修活動を行ったり、楽器や机や椅子などを購入したり、中日の音楽教師が交流できる場を提供したりして、いろいろ支援していただき、中国の音楽教育の発展及び中日両国の民間友好に大きく貢献してくださいました。

国交は国民の親しみであり、国民の親しみは心の絆であります。民間友好が中日友好を促す真の力です。音楽は感情を表す芸術で、国境を越える言語でもありますので、異なる民族の人の心と感情を繋げられ、異なる文化間の架け橋を構築できます。今回の訪問は、中日両国の音楽教育交流と文化交流に対し、非常に良い対話の場を提供してくれました。音楽などの文化教育の交流が、中日両国民の心と心の距離を縮めること、また、中日の民間友好のさらなる発展を推進することを期待しております。

実は、代表団の音楽教師のほとんどは、日本に来たのは、初めてです。だから、代表団の皆さんに、今回の貴重なチャンスを大切に、よく見て、聞いて、日本の学校の先進理念などを勉強し、知識を身につけ、友達を作って欲しいです。そして、その経験をきっかけに、ぜひ中日民間友好の促進に貢献してください。

最後に、今回の訪日活動が円満でありますように、

中日友誼が長く続けられますように、願っております。

皆様、どうもありがとうございます！

2019年10月18日

(5) 代表団員感想文

日本で開催された音楽教育交流活動についての感想

宋慶齡基金会(秘書長) 袁 振雅



日本公益財団法人日本中国国際教育交流協会のお招きいただき、中国宋慶齡基金会は、2019年10月17日から10月20日にかけて、山東省東平県の音楽教師たちと交流団を組み、日本で開催される中日音楽教育活動に参加した。日本国際教育交流協会に、今回の教育活動を心を含めて準備していただいた。四日間の間、交流団一行は山梨県春日居小学校を訪れ、音楽などの授業を見学したり、山梨県知事、笛吹市市長および教育関係者たちを表敬訪問し、話し合ったりすることによって、日本の方々ととの友情が深められた。両国の音楽教育交流を促進することを目的とする今回の交流活動は、文化などについての相互理解が深まり、良い成果が達成された。

今回の活動は、中国宋慶齡基金会は全国教育大会の精神に応じ、「平和・統一・未来」の理念を实践し、「実験性、示範性」の方針を実行する重要な措置であり、教師たちの視野を広げ、業務遂行能力を高める異文化交流の場でもある。

一、中日教師たちはメンツォーメンでコミュニケーションし、音楽教育交流を展開

笛吹市春日居小学校では、まず、志村校長は交流団団員に、小学校の歴史や、クラスの設置や、教育理念などについて説明して下さった。そして、団員たちは異なる年別の音楽、日本語、英語、手仕事、体育、算術の授業現場を参観し、最初から最後まで霜村主任による音楽示範授業を見学した。最後に、日本の小学校の給食を試食した後、多数名の日本の先生たちとメンツォーメンでコミュニケーションをし、座談会を行った。座談会では、中日両側はお互いに質問し、中日の小学校の授業設置、教育理念、特に音楽の教え方について感想を交わした。

近年、中国では、知育・徳育・体育に重点をおいた素質教育がますます重要視されてきている。中国の中小学校の音楽教育は発展してきたが、日本に比べれば、まだまだ不足なところが多い。例えば、中国では授業では、学生に対する発声の練習や、他人に耳を傾ける意識を育てることや、小さい楽器の登場と普及などが足りていない。また、中国の学生は授業以外に自発的に発声練習をすることも少ない。

音楽授業以外に、日本の小学校の理念や教え方なども交流団にとって印象的であった。例えば、実践の中で学生の能力を向上させること、心が尽くされた教育環境で子供たちの成長を守ること、学生の全面的発展を重視すること、学生の体育・芸術に関する趣味を養うこと、伝統文化の伝承と発展に力を入れること、OB・OG資源を活用することなどがある。

訪問中に、団員たちは山梨県第69次秋季教育研究山梨県集會に参加するチャンスに恵まれ、そこで、元日本教育会館会長にお会いすることができた。会長によると、彼は去年北京で我が中国基金会の王家瑞主席に会った。興石東先生は、会場で妙に宋慶齡先生の言葉を引用した。「待つておけばいいことがあるが、児童と少年を育成することは待つてはいけない。」

二、地方政府の政治家を表敬訪問し、前向きに活動の影響を広げる

日本で滞在する間、交流団一行は山梨県知事長の長崎幸太郎様、山梨県笛吹市市長様を表敬訪問した。座談会では、交流団団長の湯建軍さんは日本の友人に中国宋慶齡基金会の方針や、理念、そして、今回の交流活動の目的を紹介した。交流団は、さらに日本政府の中日民交流、子供教育についての考え方や理念もさらに認識できた。そして、日本政府は、日本中国国際教育交流協会と中国宋慶齡基金会が両国の音楽教育事業を促進するために、努力したことを評価し、交流活動の展開のサポートをし、より多くの中国友人に日本を訪れ、特に富士山の麓にある山梨県にて見学・交流してもらいたいという意を示された。

三、交流を促進することで、共通認識を求め、友情を深めること

日中国際教育交流協会は、交流団に歓迎レセプションを開催した。黒田文男代表理事、笛吹市市長、教育局の関係者、春日居小学校学長、教師の代表者、日本各地の教育関係者などの方々が出席した。交流団団長の湯建軍さんは挨拶の中で、「音楽は国境と地域を問わない優雅な芸術であり、世界で最も美しい言葉でもある。音楽は異なる民族感情を繋げる橋であり、中日両国民の心と心の距離を縮める絆でもある。それによって、中日民間文

化の友好交流を推進することができる」と発言した。これについて、日本政府の教育関係者や学校の先生たちは同意した。歓迎レセプションでは、中日双方は一緒に『時の流れに身をまかせ』、『富士山』、『四季の歌』など両国民にとって聴き馴染んだ歌を歌い、会場は盛り上がった雰囲気であった。全員は歌うことで、友情がさらに深められ、みんなは来年中国で会うことを約束した。

四、外交の基盤である民間交流を活用すること

去年10月、安倍晋三首相が中国を訪問した時、李克強総理と、両国国民の相互信頼、相互理解を強化し、さらに両国国民、特に若者の交流を拡大すべきであると合意した。交流の意義は身をもって体験し、そして、理解することにある。今回の音楽教育文化交流活動は、音楽の絆としての役割を果たし、中日関係のさらなる改善・発展に貢献した。両国民は直接に体験し、話し合うことで、心の距離が縮められ、相互理解の橋が築かれた。今回の日本訪問は、全員にとって非常に勉強になったいい経験である。団員の郭沫男さんは、「社会の風を変えようと思えば、音楽ほどいいものはない」と言われるように、音楽は地域の気風を強化することができるだけでなく、子供の成長にも非常に重要である」と言った。団員の教師たちは、経験から学び、中日の共通点を見つけだし、異なる点を残しておき、引き続き改革し、着実に前に進むことによって、教学質の向上、中国音楽教育の発展、子供美学教育体系の整備、また、中日平和友好交流事業に貢献したいという意欲を表明した。

コミュニケーションは学習をより高め、愛を長続きさせる

— 宋慶齡基金会赴日教育交流学习心得体会 —

宋山东省东平县佛山中学 董 在龙



10月、とてもフレッシュな秋、10月17日から20日にかけて、私は幸運にも、中国宋慶齡基金が主催する日本での教育交流活動に参加しました。

中国宋慶齡基金の湯建軍部長と袁振雅主任に率いられ、笛吹市立春日居小学校、山梨県知事の長崎幸太郎さん、笛吹市長の山下政樹さんのところへ連続して訪問し、学校の音楽教育活動を体験しました。湯部長は、中国宋慶齡基金の一般的な状況と日本との関係、および日中国際教育交流協会との協力について紹介しました。

過去数日間の日本での研究およびセミナーで多くのことを学び、多くの恩恵を受けました。音楽は崇高で深遠な芸術であり、感動的な魅力があり、生徒の扱い方、生徒への教育、生徒に与える影響は教師である自分自身の責任です。霜村先生は、生徒の「心身の健康を育む」という教育目標に基づき、生徒が教師の積極的かつ効果的な指導の下で活発に学習し、生徒の心を形作り、専門性を発揮し、各子どもに愛と知識を広めます。教室が活気のある雰囲気に満ちている場合に限り、生徒の精神が満たされ、感情が高まり、関心が強くなり、思考が活発になり、学習効率が向上します。したがって、霜村先生の指導で学習環境と雰囲気の創造は良い結果を達成しました。

音楽教育自体は審美的な教育なので、学生にとって音楽教育における歌の美しさを十分に体験することは非常に重要です。関心は最高の教師であり、音楽に対する関心と愛情を育むことが重要です。音楽教育を愛し、学習を愛し、仕事を愛し、音楽教育をより美しくします。この研究を通して、私は音楽教育プロセスを再検討し、将来の仕事の明確な方向性を教えられました。私が学んだ教育のアイデアを噛み、消化し、内面化することによって、私の教育実践を導きたいと思っています。教育では、生徒の「個性と、美を鑑賞し、創造する能力を養う」の開発により注意を払う必要があります。音楽教育を通じて知性を養い、知恵を促し、生徒の愛と美の追求を刺激するよう努めなければなりません。

2019年10月26日



音楽はコミュニケーションの架け橋、音楽はこころの絆

— 訪日交流会体験記 —

山東省泰安市東平県教育局 史 桂玲



公益財団法人日本中国国際教育交流協会にお招きいただき、宋慶齡基金会湯部長率いる8名の代表団の1人として、2019年10月17日より山東省東平県の音楽教師とともに日本を訪れ、音楽教育交流を行いました。東京の羽田空港に到着したのは午後5時半頃、赤岡教会理事が到着ロビーで私たちを出迎えてくださいました。長年懇意にいただいている赤岡理事は、大変博識で、ユーモアにあふれたお方です。その後、高速バスで山梨県へ向かい、ホテルに到着する頃には、日付が変わろうとしていました。

今回私たちは東京および山梨県笛吹市を訪れましたが、まず日本の美しさにとっても感動しました。どこへ行っても道端にゴミが落ちていることなく、道路は綺麗に整備されていますし、建築物は細部に至るまで精巧に作られているのです。また、日本中国国際教育交流協会の関係者の皆さまは親切で、その謙虚な振る舞いが印象に残っています。私たちのような若者に対しても、さまざまな面で細やかなご配慮をいただき、温かな気持ちにさせてくれたことは忘れられません。仕事に対する熱意や、時間厳守に対する考え方にも感銘を受け、是非見習いたいと感じました。

笛吹市立春日居小学校を訪れた際、霜村先生による斬新で生き生きとした音楽の授業を見学させていただき、大変衝撃を受けました。歌唱教材『ふじ山』を使用した授業は素晴らしく、子どもたちに音楽の楽しさを感じさせるだけでなく、知識も深めることができる素晴らしい内容だったのです。お昼になると、子どもたちは帽子と割烹着を身に付け、配膳から片付けまで自分たちで行い、床を掃除します。校内でも左側通行を守り、廊下ですれ違えばお互い会釈や挨拶をしていて、感心しました。まさに私たちの県の小学校が手本にしたい光景と言えるでしょう。

交流会では研究授業から感じたことを中心に、日本と中国の音楽教育のさらなる発展を目指すための意見交換を実施。日本中国国際教育交流協会を代表し、黒田代表理事より「2006年から中国宋慶齡基金会のご協力のもと、この10数年間、音楽教育における日中双方の架け橋として、また相互理解と友好のために力を注いでまいりました。世界情勢は絶えず変化し、今後の流れを読むことは容易ではありません。しかし、音楽教育の交流を通じ、日本と中国の人々の心の距離を近づけ、両国の友好的な教育発展に貢献できるものと確信しています。」と、私たち一行に歓迎のご挨拶をいただきました。

山梨県の滞在中には、山梨県知事である長崎幸太郎氏および笛吹市長の山下政樹氏を表敬訪問させていただきました。宋慶齡基金の湯部長は、基金の概況報告および日本中国国際教育交流協会との提携状況についてお話されました。長崎幸太郎県知事からは「宋慶齡基金は、音楽教育によって子どもたちの未来に大きく貢献してくださっています。まずは教師、そして子どもたちへと、音楽交流を通してお互いの気持ちと文化の距離を近づけ、友情を深め、日中両国の末永い友好の土台となり、一緒により素晴らしい未来を造っていきましょう」との心強いお言葉をいただきました。また山下政樹市長は、日中の音楽教育交流が活発化していることを絶賛くださり、主に音楽教育分野について、日中の文化交流に引き続き協力していきたいとお申し出をいただき、大変ありがたく存じます。

このほか、幸運にも山梨県第69回秋季教育研究集会に参加することができました。開会式では代表者の方より「子どもは、私たちの未来」と宋慶齡氏のことばを引用したご挨拶があり、その他にも教育とスマートフォンについてのお話など、とても興味深い内容でした。また驚かされたのが、会場で歌われた「緑の山河」です。強い団結力と一体感を感じ、私たちはみな舌を巻きました。

今回の日本訪問は私たちの視野を広げてくれ、心を揺さぶられました。教育に携わるものとして得たことも大きいですが、日本と中国の友好を肌で感じられたことが何よりの喜びです。短い期間ではありましたが、大変実りの多い旅となりました。交流活動の中で、日本の最前線の小学校音楽教育に触れることができたこと、私を含む参加者みなを感じています。日本における音楽の授業は実践的で、生き生きとしており、そして楽しさに溢れています。教員による細やかな指導と、子どもたちの学ぶ喜びが、互いに良い影響を与えているのでしょう。日本での体験から学んだ新たな考え方や知識、教育方法を持ち帰り、中国で自らの教育スキルの向上に生かし、東平県の音楽教育事業のさらなる発展に貢献したいと考えています。

2019年10月23日

第5回宋慶齡基金会教育交流学習報告

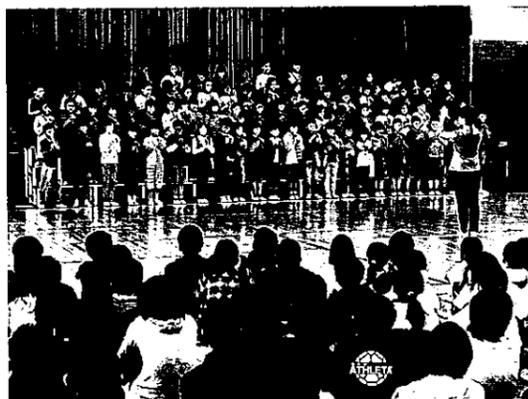
東平県第三実験小学 張 徳峰



2019年10月17日から20日の間、在中国宋慶齡基金会湯建軍部長、袁振雅主任のもと、「第5回宋慶齡基金会教育交流代表団赴日本文化交流活動」に参加し、活動期間中は、日本中国国際教育交流協会の黒田理事、赤岡執行理事、山梨県知事、笛吹市長および春日居小学校の教師や学生の、温かい歓迎とおもてなしを受けました。笛吹市の春日居小学校では、私たちは学校の設備や教室での授業を見学し、霜村先生の音楽の授業を見聞して、それらについて研究討論し、日本の国情を深く体感しました。子どもたちに対する資源や環境を意識する教育、ごみの分別や、きれいに整理し保管することなどを推し進めていま

した。小さい頃から子どもたちの自立心を養うことが重視されていて、音楽の教室には愛国教育がしみ込んでおり、子どもたちはリラックスした様子で楽しく、積極的である気のある雰囲気の中、知識を学んでいました。私たち一行8名は、笛吹市長と山梨県知事も訪問し、日本の教育をさらに理解しました。経済が発達した国家として、教育と人材を重視している点が印象深かったです。21世紀に入り、自然科学の分野で、日本は19のノーベル賞を受賞しました。日本ではとくに家庭教育に力を入れており、公民科学の素養を重要視して、両親が家庭内で子どもを教育する過程でも、科学への興味をかき立てるよう自然観察を促したり、子どもの探究心を養った結果、日本の子どもたちは科学の分野で他を凌駕することができています。富士川町立増穂中学校では、「第69回秋季教育研究山梨県集会」に参加し、実りのある、謹厳で、効率の良い気風と、厳正な会場規律、会に参加している方々の高揚した雰囲気感激しました。これらを通して、少しずつ、私たちは日本を知り、理解していきました。

日本は、我が国にとって一衣帯水の隣国です。両国民は古くは唐の時代から頻繁に文化交流を行い、高僧鑑真は六度にわたって渡航を試み、弟子の病没や、自身の失明など、多くの苦難を経て、ついに六度目で日本への訪問に成功しました。日本の天皇に謁見し、両国民の親睦を図り、中日文化の交流と発展を促しました。中日両国民の友情と、友好な関係が今後も継続していくことを祈願します。 2019年10月26日



「学習は未来を開き、交流は成長を促進する」

— 宋慶齡基金による日本との交流において —

山東省東平県第四実験小学校 辛 誠

10月17日から20日の4日間、私は宋慶齡基金交流団として湯部長と袁主任の案内のもと日本を訪問視察しました。山梨県知事の長崎幸太郎氏、笛吹市長の山下政樹氏を表敬訪問し、笛吹市立春日居小学校を参観、湯部長はこの基金の概況ならびに日中国際教育交流協会との起原や提携状況を紹介しました。長崎幸太郎氏と山下政樹氏は宋慶齡基金と日中国際教育交流協会のこれまでの成果や貢献に賞賛を述べ、日中文化交流のために支持継続することを表明しました。



今回の交流視察は日本滞在4日間という短い時間ではありましたが、大きな感銘を受けました。いくつか要約しますと、高効率・文明・序列・自律です。

高効率。一つは、交流視察の時間は非常に無駄なくアレンジされており、すべての課程が具体的な時間で決められ、車移動から授業見学、交流が効率よく行われた。二つ目は、山梨県知事と笛吹市市長を訪問した際、笛

吹市事務所ではとても多忙な様子の市職員をお見かけした。市長も大変多忙な状況の中、予定通り午後2時30分に会議室に到着され我々と面会された。山梨県知事も予定通り午後5時30分にお越しになった。これは政府運営全体が非常に効率的である。

文明。日本ではみな高速道路や一般道、サービスエリア、宿泊施設などすべての場所で礼儀正しい。お互いに丁寧なお辞儀をし、ゴミを散らかす者はおらず、街道上にはゴミ箱もなく清掃人もいない。食堂では各々が列にならび、食べ終わった後は各自片付けてテーブルを掃除する、他者に迷惑をかける者はおらずみんなが同じ趣旨を共有し行動している。

序列。会場や地下鉄、レストラン、エレベーターなどすべての場所で混雑は見られず、順番に並んで進んでいく。この理念は、緊急を要する人の為にスペースをあけておくためである。また羽田空港から笛吹市のホテルに向かう際、午後5時から夜11時30分ごろ、恐らくみんな急いで帰宅したい時間帯に、雨も降り出す中、一列になって一定の速度で走行し緊急走行車線を使って追い越しをする車両はない。先を急ぐ大声も聞かえず、みんながずっと順序良く進んでいく。その他、山梨県の教育研究集会に参加した際、参加者はみな一律に正装で、知事と来賓の入場前には行儀よく席についている。これは通常の事のようにであった。

自律。日本人は素晴らしい民族だと認める。警察や管理者がいなくても順番に秩序ある状態を保てる、このことは自らを律する意識が非常に高いと言える。社会全体のすべての人々が高い意識でいてこそこの状態は保たれるのだから、これは称賛に値する。

短い時間の交流視察でありましたが、日本が教育に重きを置く事により優れた民族になりえたことがわかりました。美しく保たれた家々の庭は環境保全に、地球環境意識の高さは資源の節約につながっています。

帰国後、私は先生方に感想と成果を伝えました。日本の順序を守る文化は、毎日の習慣により生徒に浸透し、各々が自らを律することができるようになる。中華民族も取入れることができるなら、さらにスピードを持って復興し、世界の東方にいつまでも繁栄するだろう。

楽しい音楽に国境はない 教学は友情を築く

— 音楽交流で日本を訪れた際の体験 —

東平県青峰山実験学校 宋 贊

10月17日から10月20日、私は日本で行われた4日間の東平県音楽教師交流団の音楽教育交流活動に参加しました。活動中に日本の笛吹市春日居小学校を見学し、音楽の授業及び算数、国語、体育などその他の教科を視察し、現地の先生方と対面式の座談会を行い、日本の小学校の教育教学理念や指導実務過程をより深く理解しました。日本の音楽の授業は偽りがなく、生き生きとして、楽しく、教師の教学に対する熱心さと子供たちの学習に打ち込む喜びはお互いに良い相乗効果を生み、互いに学び、共に成長するという目的が達成できていると感じました。



霜村先生の斬新で生き生きとした音楽の授業はとても印象的でした。それは、音楽は楽しいということです。日本の音楽教育者である鈴木氏は「児童の心理は「遊ぶ」である。ゲームを教室に持ち込めば児童は音楽の授業が一番楽しい授業だと感じるだろう」と考えます。ゲームは子供をやる気にさせ、目覚めさせ、鼓舞する手段です。遊びが大好きなのは子供たちの天性のものであり、興味は彼らの一番の先生です。そしてゲームは鍵のようなものであり、子供の学習に対するやる気と興味の門を開き、子供たちの学びの中に喜びと楽しさを生み出します。私たちは音楽の教材の中において、沢山の音楽素材のほとんどが子供らしさで満ちており、ほとんどすべての歌が遊びを通して学ぶために子供たちに与えられているということを簡単に気づくことができます。学生に音楽の授業やあなたのクラスを好きになってもらうには、授業の中にゲームを適切に取り入れる必要があります。

たとえ彼らにいろいろな知識を学習させたいとしても、最も有効な手段はこのような知識をゲームの中に巧妙に融合させ、彼らにゲームの中で学ばせ、ゲームの中で感じさせることです。要するに、小学校の教育の中では、人が基本であり、学生が主体であるのみなのです。彼らの身体的なコミュニケーションと特徴に十分に注意を払い、ゲーム方式を利用し、教員によって入念に組み立てられたゲーム活動を通して、学生の学習への興味を高め、学生はゲームを取り入れた教育活動の中で音楽の楽しさを感じることが出来ます。

座談会上で、日本の友人の親和性にとっても感銘を受け、自分自身の音楽の授業の中で、リラックスしたクラスの雰囲気を作り上げ、音楽の教師独特の魅力をもって生徒を引きつけ、学生の心をゆったりとさせ、気持ちを充実させることをさらに強く決意しました。私が教室へ入る時、常に生徒に笑顔と熱意を伝え、このような活気と鮮烈さは無意識に学生にも伝わり、知らず知らずのうちに彼らの注意力を教壇へ集中させます。学生たちに私を



好きになってもらい、それによって音楽の授業、そして音楽を好きになってもらいます。

今回の交流学习は、私にとって概念上の洗礼があり、また理論の高まり、知識の蓄積、そして教育技術の向上がありました。これは多くを得られる交流であり、私の教育の道での継続的な成長を促進する経験です。私は私自身の歌声とピアノの音色によって学生たちを音楽の大海で泳がせ、私の音楽の授業から飛び出していく子供は喜んで音楽の翼に乗り、音楽の世界の美しさと魔法を体感し、人生の鮮やかさと美しさを感じ、人生の誠実さと幸福に気づくと信じています。

遥かに指さす初日の外より来ると、始めて知る更に扶桑の東の有るを

— 宋慶齡基金会 十月日本への同行 —

東平県佛山少学 翟 明菲

現在、飛行機が層雲の中を行き交っている。飛行機の上には青空があり、下には雲が浮かんでいる、太陽がまるで近くにあるかのようだ。雲も1つの世界であったのか、このように果てしなく、このように次々と現れるものなのだ。大自然の前では人とはこんなにも小さいものであった。人もまたこんなにも素晴らしいものである、人は天にも昇れるのだかつて古人は「扶搖」をうち直上するもの9万里」など書いた、このような雄々しく卓越した詩の文章があるが、本当に雲の上に立ったことはなく、目の前に見える天の外側にまだどのような天があるというのか。



このため、現在の中国宋慶齡基金会への気持ちは、我々の県の教体局が私に与えてくれた今回の日本での交流学习、視野を広げる機会に感謝の気持ちでいっぱいである。

同行するリーダーの先生方は皆私の恩師である。7月から訪日の知識を得るための学習をし、史主任が辛抱強く細かいところまで教えてくださった。董書記は落ち着いていて、言葉は少なくとも我々団体の中流砥柱である。辛校長と張校長は学校教育業務のベテランである。宋賛さんは私が高校に進学した時に教師になった先輩である。このように、北京宋慶齡基金会は愛すべき湯部長と小雅主任が辛領してくださり、一行は楽しく和やかな雰囲気の中で日本への旅路へと繰り出したのであった。

日本のホテルに到着した時は既に日本時間の11時半であった。2日目の8時前には集合しホテルを出発した、山梨は非常に住みやすい地方であると感じた。街道と民家は北野武や宮崎駿の映画を見た時と同様であった — 清潔、風雅、自然な秩序、空気中に満ちる金木犀の香り。私の日記にはこのように書いてある：宮崎駿のアニメの中の美しい情景は芸術家の自由闊達で躍動感に溢れた創作だと思ったが、日本に来てやっと気が付いた。これが人の日常だったので。

春日居小学校はその名のとおり、学校の文化、学校の雰囲気や教員の気質全てが人を温かく心地よく感じさせた。学校全体がこれを無理して作っているようなところは微塵もなかった。一行は日本方の学校長の引率の下学校の会議室、教室、事務所、図書室、調理室を見学し、小学生の体育、国語、理科や音楽の授業を参観した。

音楽の授業では霜村先生が日本の歌「富士山」を歌った。霜村先生の授業の様子は自然で優しく、活気があり、可愛らしかった。印象深かったのは先生の流れるような鍵盤のたたき方であった。子供は高音で起立し、低音で着席するように教育するという良い習慣である。次に霜村先生は曲の3フレーズ目と4フレーズ目を重ねて解説し、学生に富士山の曲折や山の連なりを理解させていた。また学生に山脈について理解させる中で曲の強弱の変化を身に付けさせた。更に、霜村先生は子供たちに歌を教えた後、携帯電話を利用して子供たちの演唱を録音しては教室内で再生し、子供たち自身に自分の演唱の問題点を研究させ、正確に自己評価と改善ができるように段取りされていた。最後に霜村先生の授業はいささかの出し惜しみをすることもなく、平然と公平に学生一人一人と向き合い、全員に学習と自己表現の機会を与えており、更に彼らの勇敢な自己表現をうまく引き出していた。霜村先生の授業で、私は小さな事から大きく広がることを確信し、以点帯面（ある地点で得た経験・成果を全面的に広げていく）の感覚を日本文化の細部に感じた。

授業が終わると子供たちの昼食の時間になった。小学生は先生の指導の下、同じ帽子とエプロンを着け順序良く食事をし、先生を手伝って後片付けをした。日本人には昼寝の習慣がなく、食後の時間は子供たちの自由時間である。グラウンドでサッカー遊びをしたり、図書室で本を貸し借りし座って読書したりする子供たちや、教室内でピアノを弾いて歌を歌ったり自由に遊んだりする子供たちが見られる。学校の壁には子供たちの作品、書道、絵画や工作などがあり、その他の如何なる標語はない。学校に入る時は靴を替え、左側通行をし、人に合ったらお辞儀し、トイレでは並び、トイレを使ったらきれいに整理するということが早くから習慣づいている。

中日音楽交流会では、双方が自由に発表しあった。湯部長が我々交流会の素晴らしい締め言葉の言葉をくださった。湯部長は中国宋慶齡基金会の主旨は国際友好であり、兩岸交流ならびに青少年の未来事業であるとおっしゃった。我々の交流活動がこの主旨に沿って継続されることを願っている。

春日居小学校を離れ、笛吹市市長、山梨県知事を訪問し、2日目の第69回秋季教育研究山梨県集會に参加したことはどれも有意義であった。日本で同行した人たちは素養があり、驚くべき団結力があり、心の奥が引き締まる感じは我々にとって意義のあることだった。

文化と音楽には国境がない。このような年齢でこの地球上の他の国の異なる音楽と文化を体験できたことを大変光栄を感じる。彼らの教師と学生はどのようにして相互に成長しているのかを見ることができた。孔子曰く、三人行へば、必ず我が師あり、日本文化の中には確かに我々が学ぶべき物が多くあり、今後も学習や仕事の中で私はより多くの知識や思考法を吸収したいという向上心を絶えず持ち続けていこう。手段は一時的なものであるが、文化は永続的なものである。広く読みあさり、包容力がありより強い人間のみが異なる文化を分類し自分の物にすることができるのだ。

改めて中国宋慶齡基金会に感謝し、日本中国国際教育交流協会に感謝し、東平県教体局がこの度与えてくださった貴重な機会に感謝したい。上國隨緣住、來途若夢行（上國 縁に随いて住す、來途 夢行の若し）。日本の友人が中国に来て相互交流となることを歓迎する。我々は友好互助の種をまき続け、世代にわたって耕し続け、永遠に芽を出し続けることを望む！

山東省泰安市東平県音楽教育支援（教育交流 支援事業）

山東省泰安市東平県への新たな教育支援プロジェクトが開始されて5年目（最終年度）となりました。今年度も、泰安市東平県教育局及び宋慶齡基金会との打ち合わせを通しながら、東平県の小学校への音楽教育機器等の教育支援の内容を決定しました。今年度教育支援費100万円については、9月下旬の協定締結後、速やかに宋慶齡基金会を窓口として、東平県教育局へ送金しました。

（1）2019年度教育支援に関する協定書

2019年度教育支援に関する協定書

宋基金会法字(2019)190号

公益財団法人日本中国国際教育交流協会と中国宋慶齡基金会は、日中両国の友好のため、特に中国国内の経済発展途上地域における子どもの福祉のため、またより多くの子どもに教育を受ける機会を提供するため、今後共同の活動領域において互いに協力していくことで合意した。こうした目的を達成するため、以下の協定を結ぶ。

第一条（目的及び用途）

- 公益財団法人日本中国国際教育交流協会は、中国山東省泰安市東平県の児童・生徒に対する音楽教育支援を中国宋慶齡基金会を通して行う。これによって音楽教育環境を改善し、水準を向上させる。
- 公益財団法人日本中国国際教育交流協会は、中国宋慶齡基金会、中国山東省泰安市東平県教育局と共催し、日中小学校の音楽教師による第4回日中音楽教育交流会（今年度は日本で開催）を開き互いに学び合う機会とする。

第二条（送金及び報告）

- 2019年、公益財団法人日本中国国際教育交流協会は中国山東省泰安市東平県の小中学校の教育条件・教育レベルを改善するための費用（楽器等の購入費）、及び、第4回日中音楽教育交流会へ参加するための費用（中国国内の移動等の旅費）として100万円を送金する。
- 公益財団法人日本中国国際教育交流協会は2019年9月31日前に100万日本円を中国宋慶齡基金会の指定口座に振り込む。中国宋慶齡基金会は振込を受け次第、100万日本円を山東省泰安市東平県文体教育局に送り、当地小中学校音楽教育の振興と日中音楽教育交流会への参加費用（中国国内）に使う。
- 中国宋慶齡基金会はプロジェクトが完成する際に、実施報告（具体的プロジェクトの実施内容、決算を含む）を公益財団法人日本中国国際教育交流協会に提出する。

第三条（その他確認事項）

- 第4回日中音楽教育交流会への参加については、第5次宋慶齡基金会訪日代表団の受け入れと重なるので、北京発から北京着までの交通費・宿泊費及び食費等については、全て財団で負担する。

双方は以上の協定に同意し、この協定を日本語と中国語共に各二部を作成し、双方の代表が署名捺印の上、それぞれ一部を保存するものとする。

公益財団法人日本中国国際教育交流協会

代表：黒田文男

2019年9月5日



中国宋慶齡基金会

代表：宋

2019年9月5日



（2）東平県商老荘郷中心小学校への音楽機器支援の申請に関する報告について

まず、中国宋慶齡基金会並びに日中国際教育交流協会からの本県に対する教育支援について心から感謝申し上げます。

私の郡の商老荘郷中心小学、東原実験学校、斑鳩店镇中心小学校はともに9年間の小中一貫した学校に属し、そのうち36人の既存の教師、19の教育クラス、1140人の生徒がいます。また、小学校には19人の教師と、11のクラスの362人の児童がいます。人口の増加に伴い、この2年間で3校の生徒は年々増加しています。

近年、これらの学校は、教育の質を中心とし、キャンパス環境と文化構築を絶えず強化し、学生の総合的な品質の向上に重点を置き、すべての面で良い成果を上げています。学校自体の財源が限られているため、特に音楽機器が通常のエデュケーションニーズを満たすことができないため、現在、音楽と体育の教育に対する教育施設の設置に大きなギャップがあります。生徒の総合的な能力をよりよく育成するために、私たちは、私たちの県の3つの学校のための音楽機器支援を、心から要請するものであります。

最後に、貴殿のリーダーシップに対し、私たちへの思いやりのある支援に改めて感謝の意を表したいと思います。

中国宋慶齡基金会・日本中国国際教育交流協会 殿

2019年12月

山東省泰安市東平県教育局

（3）商老荘郷中心小学等学校音乐器材缺口统计表

学 校	名 称	单 位	数 量	单 价	估 价 (元)
商老荘郷中心小学	吟飞电钢琴	台	2	2880	5760
	二 胡	把	10	300	3000
	喷 呐	支	10	248	2480
	Sxzy小军鼓	面	15	208	3120
东原实验学校	Sxzy小军鼓	面	48	208	9984
	二 胡	把	20	300	6000
	YFL-411长笛	支	10	698	6980
	喷 呐	支	10	248	2480
	古 箏	台	2	1500	3000
斑鳩店镇中心小学	吟飞电钢琴	台	2	2880	5760
	喷 呐	支	10	248	2480
	二 胡	把	10	300	3000
	Sxzy小军鼓	面	15	208	3120
合 计					57164

（4）第5次代表団の中国国内の費用の内訳（人民币）

	支 出 内 容	明 細	金 額
1	東平県教師6名による北京での宿泊費（洛士文ホテル）	480元/1日*4室*2日	3840.00
2	東平県教師6名による北京での食費（洛士文ホテル）	50元/1回*6人*2回	600.00
3	ホテル-空港往復、駅-ホテル往復の交通費（ミニバス）		2580.00
		184.5元/1人*6人*2	2214.00
4	ビジネスビザ8人の申請費		5127.00
5	モバイルWIFIの賃金	30元/1日*3台*4日	360.00
合計			14721.00

第8回教育交流ホームステイ in 神奈川 (教育交流 研究等助成事業)

外国人留学生は、年々増加しています。特に多いのは、中国からの留学生です。彼らは日本での生活の間に、より多くのことを経験し、また学ぼうと意欲に燃えています。そうした留学生に関わって、日中の教育交流及び文化交流そして強い相互信頼による結びつきを目指す協会の願いとしては、「日本を理解し、日本と母国との友好を担ってくれる人材により多く育て欲しい」と、言うことがあると思います。日本に留学している学生のほとんどは、日本語学校に通学していますが、特に入学初年度は語学力も十分でない上に、なれない異文化の中で、学業・日常の生活面で困難に直面している学生も多いと言われています。協会では、こうした留学生の語学力の向上をめざし、日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業としてホームステイ事業を実施しています。今年度で第8回目となる本事業は、上記の諸課題等に対して大きな成果を上げつつあります。

(1) 第8回教育交流ホームステイ実施要項

- 1 実施目的 中国人留学生の日本語学習の一助として、日本家庭でのホームステイを体験し、ホストとの交流を通して日本語の語学力を磨き、日本人及び日本文化に対する理解を深め、日中両国の友好の礎を担う人材を育成すること。
- 2 実施期日 2019 (令和元) 年8月2日 (金) から4日 (日) 2泊3日
- 3 実施場所 神奈川県下の小中学校教職員の家庭
- 4 対象者 中国からの留学生 (大学・大学院入学のための語学研修生)
- 5 募集数 7人 (ホストファミリー7家庭)
- 6 募集方法
 - ・留学生7名については、フジ国際語学院等を通じて公募・選考する。
 - ・ホストファミリーについては、神奈川県教職員関係団体の協力を得て選定する。
 - ・男女比は、ホストファミリーの希望を聞きながら調整する。
- 7 日程

8月2日 (金)
新宿駅9:00集合→神奈川へ、10:30:ホストファミリーと合流 (自己紹介等簡単なセレモニー)、その後→ホストファミリーごとの活動にうつる

8月3日 (土)
ホストファミリーごとの取り組み

8月4日 (日)
午前中はホストファミリーごとにご過ごす→15:00ホストファミリーとのお別れ会 (全体総括会) →新宿駅18:00解散

(2) ホストファミリー・留学生名簿

	ホスト氏名	所属	住所	留学生氏名	所属	住所
1	早坂 淳史	神奈川県中学校教諭	神奈川県相模原市	梁 智鵬	フジ国際語学院	東京都文京区
2	田部 泰道	神奈川県小学校教諭	神奈川県相模原市	姜 辰昊	フジ国際語学院	東京都豊島区
3	高橋 裕二	神奈川県小学校教諭	東京都八王子市	叶 梓欣	フジ国際語学院	東京都足立区
4	小柳 和也	神奈川県小学校教諭	神奈川県町田市	杨 铭宇	フジ国際語学院	東京都北区
5	角田 純哉	神奈川県小学校教諭	神奈川県相模原市	栞 知涵	フジ国際語学院	東京都豊島区
6	石井高一郎	神奈川県小学校教諭	神奈川県厚木市	骆 颖珊	フジ国際語学院	東京都北区
7	久島 孝之	神奈川県中学校教諭	山梨県上野原市	万 晓琴	フジ国際語学院	東京都荒川区

(3) ホストファミリーからの報告

よかった点など

- ・私たち家族には、11歳になる子がいます。その子にとって、初めて一緒に過ごす外国の人になりました。来日して、3週間にも満たない学生でしたが、日本語の聞き取りが上手で、こちらの言うことを積極的に理解しようと努力していた姿や自分から話しかけようとする姿が子供にとっても良い見本となり、一緒にコミュニケーションをとる姿が思い出に残っています。留学生も日本語をたくさん話す良い機会になったと思います。素直でまっすぐ頑張る姿は、どの国の人も変わらないことを改めて認識しました。このような機会を作ってください、本当にありがとうございます。
- ・異文化交流という観点では、生活文化の違いなどを学ぶ良い機会となったと思います。
- ・2日目以降、一人っ子の息子が、兄のように慕っていたことが微笑ましかったです。
- ・家族でこれまで気にはなっていた博物館やトリックアート美術館などを訪れる機会となりました。
- ・年末年始以外は、仕事の関係で家族と過ごす時間がとれていない中、今回のことがあり、3日間家族とともに行動できたことは個人的にも良かったです。
- ・甚平をプレゼントさせていただいた際、大変喜んでもらえたとともに、お祭りの際に私とおそろいの甚平で出かけられたことがうれしかったです。
- ・ホームステイの経験を通して、家族にとっても人との関わり方や、生活習慣の違い、異なる文化への気遣いなど、普段できない経験をすることができました。
- ・ホストファミリーという経験ができたこと、またこのような機会があれば、受け入れたいと思いました。
- ・限られた日数の中で、日本語や日本文化を教えなければいけない気負いがありましたが、そんな必要はないと感じました。
- ・普段の様子で過ごすことが、留学生にとっては一番の学習になるのではないかと思います (2日間は休日だったので、家族のレジャーにもなりました)。
- ・勉強熱心な留学生と交流できたことが良かったです。がんばっている人と関わることは、自分にとっても刺激になりました。
- ・子ども達にとっても留学生と関わった経験は、将来、自分たちの進路を考える時に、何らかのきっかけになると思いました。
- ・中国の文化や食生活、習慣等を知ることができました。「中国にはある?」「中国ではどう?」とコミュニケーションをとりながら互いに学び合えたと思います。
- ・私を含め、子どもたちの「中国に対するイメージ」が大きく変わりました。これまで自分たちが見聞きするのはマイナスイメージのものが多かったのですが、留学生から聞く中国・重慶のこと、そして留学生の人間性に大変魅力を感じました。
- ・「日本のものを紹介するとしたら何がいいだろう?」と家族で改めて考える機会になりました。
- ・夕食時に中国で食べていたという料理を作ってもらいました。それを食べながら、「もし自分が海外に行ったとき、日本の食べ物はこれだと作ることができたら相手と距離を縮めることができる」と感じました。
- ・自分自身 (家族も含め)、日本の文化や習慣について改めて考える良いきっかけとなりました。
- ・中国の文化や食生活、教育などについて知ることができ、自分自身の見識も深まりました。
- ・自分の子ども (4歳と1歳) にとっても、とても良い機会になったと思います。
- ・南京亭で中華料理を食べながら、食文化について話しました。小籠包が南京の料理だということを初めて知ったし、彼女は南京亭のメニューに小籠包がないことに驚いていました。
- ・東京富士美術館で版画の体験をしました。版画について説明していて、日本の文化であることに気が付きました。
- ・花の都公園や富士山ドーム、鳴沢氷穴、紅富士の湯など、山梨に住んでいても普段は行かない所や初めて行くところもあり、避暑をしながら観光を楽しめました。
- ・東京富士美術館で見た「時をかける少女」を最終日の午前中にアマゾンプライムで見ました。鑑賞後に上野原名物の酒まんじゅうと手作りのお団子を食べ、上野原の歴史について説明することができました。
- ・最終日の午後は、留学生の希望で南大沢のアウトレットに行きました。楽しそうにショッピングしていました。

外国では買い物をする場所もよくわからないことを思い出せました。

学生への評価

- 最初は、とても緊張していた様子でした。あまり話さない子かなと思っていましたが、緊張が解けていくと次第に自分から話を始めました。家族のことや中国のことなど、私たちが知る中国の情報より、ずっと日常的なことを教えてくれました。とても素直で、真面目な学生だったので、安心して過ごすことができました。礼儀も正しく、こちらの言うことを真摯に受け止めていました。最後のお礼の言葉も気持ちがこもっていて、家族で別れを惜しみました。
- 初めは当然、緊張している様子でしたが、3人の子ども達との関わりの中で慣れていったと思います。
- 困った言動は一切なかったです。欲を言えば、積極的に話してくれたり、聞いてくれたりしたらよかったとおもいました。こちらから話しかけることの方が多かったです（性格的に大人しい子だったのかな）。
- 流しそうめんやおにぎり作り、花火大会では、感動している様子が見られたので、こちらとしてもうれしかったです。
- 帰る時に、子どもが描いた「ようこそ〇〇さん」の画用紙（初日、玄関に飾っておいたもの）と前日までに撮った写真をプレゼントしたら、喜んでいました。
- 日本の大学へ進学するために今、日本語の勉強をしているというはっきりとしたビジョンをもって生活している様子は、中学生の子どもたちにとって大変刺激になりました。
- 大変流暢な日本語で驚きました。子どもたちは中国語の自己紹介を教えてもらっていました。（名前・好きなもの・誕生日など）発音や中国語の文字を教えてもらっていたようです。
- 鉄道が好きだということだったので、いろいろな路線に乗りました。
- 非常に礼儀正しく、しっかりとした方で良かったです。日本語も簡単な日常会話であれば十分にコミュニケーションがとれました。小さい子ともよく遊んでくれました。まだ、来日して2週間ということで、普段の生活では必需品などで少し困っているようでした。一緒に買い物に行きながら、すこしお手伝いをしました。
- ホストファミリーと交流しようという意欲が伝わり、対応がしっかりしていました。こちらの反省点として、お客さん扱いをしすぎたように感じました。
- 礼儀正しく、お世話になっているという認識のもと、マナー等しっかりしていました。反面、食事や体験などについての遠慮し、自己主張が少なく、どういことを求めているのかわかりずらく、こちらのプランにのってもらいました。
- 自治会のお祭りに参加した際、地域の方々ともコミュニケーションをとることができていました。
- 小学3年生の息子の面倒もよく見てくれ、2人でお風呂に入るなど、息子にとっては良い経験となっていました。
- 日本語については、まったく心配がなかったです。また、金銭感覚などもしっかりしており、好感が持てました。ご両親の丁寧な教育がうかがえました。
- 明るい性格で、生活や文化、家族のことなどいろいろと話し合うことができました。日本に来て1年未満ということですが、言語能力の高さに驚きました。
- 見学先の撮影ルールを守ろうとしたり、家での生活態度も礼儀正しくきちんとしたりしていました。
- 料理が好きということで、2日目の晩にトマトと牛肉の炒め物、中華風太巻きを作ってくれました。とてもおいしかったです。
- 子供ともよく遊んでくれて、楽しい時間を過ごすことができました。
- 1日目に、私と2人で美術館に行きましたが、実は二人とも美術館が好きではないことが分かり、かなりの衝撃でした。（その後、版画の話やアニメを見ることにつながりましたが）

今後への希望、改善して欲しい点

- このような機会があると、外国人に対する考えが変わり、同じ人間なんだなあと再確認できる良い機会になりました。このような機会をたくさん増えるようになると思います。
- PR文書では、何を伝えたいのかが分かりませんでした（家族のことを書いていたが）。この3日間で学びたいことや将来のこと、日本語を学ぶきっかけなどを書いてくれるとよいと思いました。

- まとめの会では、小さい子がいる家族がいる場合は、一人一人の話の時間を決めて（一人3分以内、全体で40分ほど）進めていただけるとよいと思います（ドリンクやお菓子があったかったです）。
- 3日間という短い時間でしたが、とても素晴らしい時間になりました。いい機会をいただいたと思います。今後も継続してほしいと思います。
- 日本のことを知ってもらうというよりは、「相手の国のことを教えてもらった」という感じです。日本と中国の互いの距離を縮めることにつながる取り組みだと思いました。ありがとうございました。
- 3日間という短い時間ながらも、私自身、非常に良い経験ができました。可能なら、事前に留学生のニーズが（少しでも）分かると、受け入れ側の計画も立てやすくなると感じました。
- とても楽しく、また、充実した3日間となりました。機会があれば、また受け入れたいと思います。
- 日本の学校を見学したいとのことでしたが、専従休職中のため、土日ということもあり、希望を叶えることができませんでした。希望に沿うことには限界があるが、事前にやってみたいことや食べたいものなど、確認していただくと受け入れるホストも対応の準備ができるかもしれないと思いました。
- 事前に頂いた資料では「辛い物が苦手」と書いてあるだけだったけれど、話をしてみると、生魚や乳製品など、ほかにも苦手なものがあることが分かり、食事のプラン変更をしました。苦手なものはしっかり申請するよう指導していただくとホームステイがスムーズに行えるようになると思います。

(4) 留学生からの報告

ホームステイ

梁 智鵬

8月初旬、私の人生初めてのホームステイが始まりました。

最初は緊張と不安な気持ちを持っていました。日本人の先生と会うにあたり、色々なことを考えました。でも、ついに会う時、緊張しすぎて話すことができませんでした。とても恥ずかしかったです。

ホームステイのご家族はとても親切な先生のご一家でした。少し挨拶した後、先生の家へ行きました。先生の奥様が作ったご焼きはとてもおいしかったです。昼御飯のあと、息子さんと一緒にゲームで遊びました。そのあと、七夕祭りへ一緒に行きました。そこで人生初のりんご飴を食べました。昔、何度かアニメで見たことのあるりんご飴です。ついに本物をなめました！本当においしいと思いました。

翌日はお祭りに参加しました。御神輿を上げる体験をしました。上げる時は苦しいですが楽しいです。

ホームステイでは、いろいろな人と出会いました。もし、またチャンスがあったら、また皆さんと会いたいですし、もう一回ホームステイをしてみたいです。本当に楽しかったです。ありがとうございました。



ホームステイの思い出

姜 辰昊

暑い八月のはじめに、私は神奈川県でホームステイに参加した。田部さん一家ととても楽しい三日間をすごした。初めて会った時はちょっと緊張だったが、夜になるとだいぶ慣れてきた。私は電車が好きだから、パパは私を連れていろいろな電車を使って、周りを見たり、体験したりした。

初めの日、家の近くの淵野辺駅から横浜へ行って、シーバスに乗った。横浜駅から山下公園まで15分ぐらいかかった。シーバスはとても低い船で、客室に座っていったら目線の高さは海面よりちょっと高いところで、独特な感じがする。客室内の案内アナウンスに従って、横浜港周辺きれいな風景が一気に目に入った。夜、私は家で焼きなすをつ



くった。味が淡いけど、まあまあ中国の味の感じが出た。
二日目、江の島神社で、パパが朱印帳を買ってくれた。金色のきじで江の島神社の瑞心門と赤い鯉がついているきれいな朱印帳だ。夜、初めてお好み焼きを食べて、人生初のボーリングをやった。お好み焼きを食べるときに、故郷の火鍋のように、家族みんな一緒に作って、食べるの温かさが感じられる。人生初のボーリングだけど、なんとストライクをやった。楽しい一日だった。

最後の日に、パルテノン多摩歴史ミュージアムへ、縄文時代の土器や生活を見学した。土器に触れるし、石でナツツを磨けるし、木と木をこすり合わせて火を起こす体験もできる。面白い博物館だ。残念ながら、あいにく日曜日で、火を起こす体験はやっていなかった。今度、チャンスがあれば



ぜひ試してみたい。そのあと、相模原市立博物館で、相模原の歴史を習った。この地域では、昔、生糸を生産して、外国に売るのが盛んできた。そのあと陸軍の施設が集中して、戦後アメリカ軍の占領地になった。日本に返還されてから、博物館と美術館が設置された。昔の緑地もそのまま残っていて、緑があふれる気持ちいいところだ。

三日間短い時間だったが、家族みんなと日中両国の様々なことを語り合い、文化の違いに触れて、やはり有意義で素晴らしい三日間だった。この間、いろいろなことが貴重な思い出として、心に残っている。田部さん一家にお世話になって、本当にありがとうございました。

三日間だけでなく

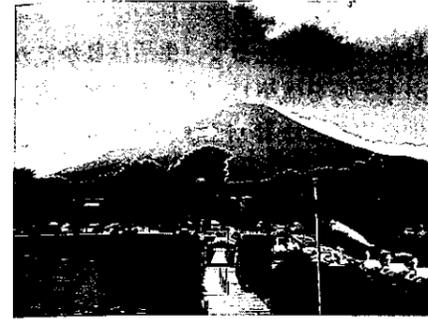
叶 梓欣

東京の八月は本当に暑いです。私はそんな暑い八月に高橋さんが住んでいる八王子市にホームステイをしました。

初日、夜明けと同時に起きて新宿へ出発しました。結局、予定より一時間半前に到着しました。集合した後一緒に会館に行きました。最初は高橋さんには会いませんでした。早坂さんの家でお昼ご飯を食べた後、高橋さんとお子さん二人と会いました。息子さんは1歳で、啓太君といいます。娘さんの名前はあずさちゃんです。4歳です。縁があって私の梓と同じです。初めて会った時、梓ちゃんは恥ずかしいから、ずっと高橋さんの後ろに隠れて話もしませんでした。ですが、啓太君の大きな目はじっと私を見つめていました。まつ毛が長くて可愛い男の子です。そして、一緒に家に帰って奥さんに会いました。ショートヘアの優しい女性です。ゆみさんといいます。

午後は、ゆみさんとおしゃべりしました。ゆみさんのおかげで、緊張しないでのんびりとできました。いつの間にかあずさちゃんも私と話し始めました。その日の晩ご飯は、回転寿司でした。あのお寿司が運ばれてくる新幹線は今でも忘れられません。灯が赤くなると新幹線が来てボタンを押すとすぐ帰りました。面白かったです。

二日目の朝、ゆみちゃんが敷いておいた布団の中で目が覚めました。高橋さんと啓太君とあずさちゃんと一緒



に高尾山に登りました。私の体力を考えて、ケーブルカーに乗りました。あずさちゃんが怖がらないか心配でしたが、あずさちゃんはずっと「怖くないよ」と答えました。すごいと思いました。登り始めてすぐ、啓太君は寝ました。高橋さんは赤ちゃんバッグをずっと背負って登っていました。本当に偉いお父さんだと思いました。

その日の晩ご飯は、忘れられないバーベキューでした。家の庭で皆一緒に焼いて食べました。笑っている顔や幸せな顔を写真に撮りました。そして花火をして、楽しかった瞬間をビデオに残しました。

バーベキューをした後、私がゆみさんに物干しが欲しい、百円ショップにいつか行きたいと話したので、最後の日は一緒に買い物をしました。結局、買った物が多すぎたので、郵送しました。更に、ゆみさんはお金も払ってくれました。

その後、家に帰って荷物を開けたとき、本当にびっくりしました。箱の中に生活用品やお菓子がいっぱいありました。最初買った物だけではありません。ゆみさんは私に必要なと思う物も買って送ってくれていたのです。その中に、あずさちゃんの手紙もありました。のたくったような字で「きてくれてありがとう」と書いてありました。読んですごく感動しました。

これでホームステイは確かに終わりましたが、私たちの関係はこの三日間だけでなく、これからも続けていきます。

あっ、そう、私たちはもう約束しました。9月に両親が日本に来るので、再会します。



ホームステイの思い出

楊 銘宇

今年、私は留学を始めました。初めて日本に来たとき、私は見知らぬ環境に入り、最初は人生であまりにも多くの困難な問題を抱えていました。そこで、日本に対する理解を深めるために、学校が開催するホームステイに参加し、そして、私がより良い日本で生活し、勉強するのを助けてくれます。

出発する前に、私の心は混ざっていました。まずは日本語のレベルを気にするのですが、国での研修を通じて、聞くことは問題ではないと思いますが、0基礎の口頭言語は日本人のみと3日間コミュニケーションを取るの大きなテストです。第二に、私の日本の家族のビジョンです。

その前は、日本の家族に手を差し伸べる機会はテレビドラマにしかならず、日本の家族を本当に体験する機会は初めてでした。日本と中国の共通点はどれくらいあるのでしょうか？この3日間でした。気分が良くなる。

ホームステイ先の姓は小柳です。4人家族の小柳です。小柳氏は小学校の国語教師で、私は妻の仕事をあまり求めません。彼らは4歳の息子とほぼ2歳の娘を持っており、子供たちは素敵で、家族に多くのエネルギーを追加します。家族は2階の別荘に住んでいて、部屋は清潔で整頓されており、このような快適な部屋に、汚れた場所を得るために耐えるのは本当に我慢できないです。家には子供たちが遊ぶ部屋が設けられており、その家は2泊の間私の居場所になりました。この部屋のおもちゃは一杯です、子供の本、トラックモデル、仮面ライダーの人形、スライド……たくさんのおもちゃを見てとても感動しました。私は小柳さんの奥さんに、両親がおもちゃについて厳しかったので、子供の頃はあまりおもちゃを持ってい

